



おみせやさんごっこ (保育原理)



着脱の技術 (自立に向けた居住環境の整備 / 専攻科)

授業風景



沐浴 (子どもの健康と安全)



泥だんご (保育内容「環境」)

CONTENTS

2023年度 聖句

「主を喜び祝うことこそ、
あなたたちの力の源である」
(ネヘミヤ記 8章 10節)



- 佐藤守男 学長 (「将来構想会議」を開催して) 2
- スカラシップ連携に関する協定 (さがみ愛育会) / TOPICS ... 3
- 日本キリスト教教育学会第35回大会 / 人事 4
- 2023年度 新任教職員紹介 5
- 2022年度決算書・2023年度予算書 概要 6~7

「将来構想会議」を開催して

学長 佐藤 守男



学校法人和泉短期大学は2023年5月15日で創立67周年を迎え、ここ相模原に来て47年になります。

この3月の卒業式・修了式には、児童福祉学科199名、専攻科介護福祉専攻16名の学生たちを無事に送り出すことができました。また、4月の入学式には、児童福祉学科190名、専攻科介護福祉専攻21名の新入生を迎えています。2年生179名を加えますと、現在390名の学生たちが、本学で元気に学んでいるところです。

これで本学園の同窓生の数は、児童福祉学科17、492名、専攻科介護福祉専攻231名、2010年に閉校した和泉福祉専門学校2、313名、合計20、036名(2023年3月現在)となりました。その同窓生のほとんどが、相模原市及びその周辺自治体にある施設、保育所、幼稚園、認定こども園等で働いています。このことは本学が、地域に必要とされていることであり、祝福されていることでもありますので、嬉しいことです。

ところで、2020年より、新型コロナウイルス感染症が全世界に広がって

4年目に入ります。現在は少しずつ以前の生活や社会活動に戻りつつありますが、しかし、いつ新しい変異株が生まれ、再び感染拡大が起きるかわかりませんので、いづれにしても、治療薬や治療法が確立されるまでは、感染予防やマスクのない生活に戻ることはなかなか難しいと思っています。

本学は、この厳しいコロナ禍の中でいろいろと工夫をしながら、多くのことを学んできました。また、教育におきましてもこのような非常事態の中で「教育の質の保証」をするために努力をしてきました。しかし、保育・福祉・幼児教育を取り巻く環境の変化や18歳人口の減少が急激に進む中で、本学のような小規模な短期大学の運営は厳しく、これからさらに18歳人口が減少することは確実ですので、本学の今後の在り方を検討しなくてはなりません。

そこで本学は「将来構想会議」を開催することに致しました。須田拓理理事長はこの「将来構想会議」を開催するにあたり、「本学はキリスト教学校であることを大切に、キリスト教学校であるからこそできる教育を指すという基本線は変わらないとしても、それによって愛と奉仕の精神を身に着けた保育者が育てられていくために、さらに何ができるのか、どのような教育がなされるべきか、そしてどのような学生を受け入れ教育していくのか、また、この学び舎がこの地にあることをどのようにして地域

に知っていただくのか、など、様々な観点から、教職員のヴィジョンをお聞かせ願いたい」と言われました。

現在の和泉短期大学は、日本で唯一の「児童福祉学科」単科の短期大学であり、これまで保育士資格、幼稚園教諭二種免許を取得できる保育者の養成にあたってきています。

同じ資格、免許が取得できるといっても、学校のカラーによって学び方も雰囲気も異なりますが、本学は、「子ども達の幸せとは何か」として「子ども達が幸せになるにはどうしたらよいか」ということを常に考えてきた保育者養成校であります。つまり、学生たちが、児童福祉の精神の基に、子ども達の目線に立ち、子ども達の権利を大切に、子ども達の命を守り、すべての子ども達が自分らしく健やかに安心して過ごせるよう支援できる保育者となるよう、育成してきたのです。

現在、保育者に求められている資質として、子ども達を取り巻く様々な出来事を理解し支援できる人材が求められています。政府も「こども家庭庁」を設立し、「こども家庭ソーシャルワーカー」という国家資格をつくらうとしています。

本学は「将来構想会議」の中で、建学以来大切にしてきた「子どもに寄り添う支援」と「子どもを取り巻く家庭や地域への支援」に改めて焦点をあて、今年度より本

学独自の資格として「こども支援ソーシャルワーカー」を作ろうということになりました。

また、専攻科介護福祉専攻におきましても、2024年度よりリニューアルして、名称を「専攻科ヒューマンケア専攻(届出予定)」として、児童福祉学科での福祉・保育の学びを基に乳幼児から高齢者までトータルにケアできる専門職の養成へとバージョンアップすることになりました。

今後、本学は、これらの計画をさらに精査し、和泉短期大学の児童福祉学科、専攻科介護福祉専攻の魅力を積極的にアピールし、地域に必要とされ、国から期待されている高等教育機関の役割を果たすとともに、本学の専門分野であります「保育・福祉・幼児教育」の実践の場で即戦力としてご期待に沿えるよう、また質の高い知識と技能を身につけ、倫理観のある職業人として成長していけるよう、学生たちをしっかりと導いていきたいと思えます。

結びに今年度より本学は、現在保育の現場で働いている方、これから保育の現場で働こうと思っている方、保育の現場に復帰しようとしている方々を対象に「スキルアップ・キャリアチェンジ講座」を本格的に開くことになりました。和泉の同窓生の皆さん、そして、近隣でお働きになっている保育者の皆さん、ぜひこれを機会に和泉短期大学においていただき、この講座をご活用いただければ幸いです。

社会福祉法人さがみ愛育会と学校法人和泉短期大学におけるスカラシップ連携に関する協定

2023年7月10日(月)チャペルアワー終了後、2023年度「社会福祉法人さがみ愛育会スカラシップ事業給付型奨学金」顕彰者表彰式を行いました。

2023年度の「社会福祉法人さがみ愛育会スカラシップ事業給付型奨学金」顕彰者は2年生2名です。

「社会福祉法人さがみ愛育会スカラシップ事業給付型奨学金」は社会福祉法人さがみ愛育会と学校法人和泉短期大学が相互の教育交流・連携

を通じ、さがみ愛育会が本学の学生に学修支援を行う奨学金です。

このたびは、ご支援いただきまして誠にありがとうございました。



社会福祉法人さがみ愛育会 小林祐子 理事長(右から2人目)、松岡裕 常務理事(右)、学校法人和泉短期大学 須田拓 理事長(左から2人目)、佐藤守男 学長(左)

2年 丸山 真采

(県立二保川看護福祉高等学校出身)

今回、社会福祉法人さがみ愛育会スカラシップ事業給付型奨学金に選出されたことをとても光栄に思います。いただいた給付金は就職に必要な免許を取得するために使わせていただきます。和泉で学んだことを大切に、今後も支えてくださる周りの方々への感謝の気持ちを忘れずに精一杯頑張りたいと思います。

2年 兒玉 瑠依

(県立愛川高等学校出身)

今回、さがみ愛育会様からこのような機会をいただけることを嬉しく思います。このことで学生生活を送るうえで不安や負担がいくつかわ解消されたと感じています。このような支えを受けて自分は保育を学ぶことができているという自覚を持って、より価値のある学びや学生生活を送りたいと思います。

TOPICS

「子どもの健康と安全」にて救命救急を学習

2023年6月3日(土)2限、「子どもの健康と安全」の授業にて、相模原市消防局 相模原消防署緑が丘分署のご指導のもと「救命救急」について学びました。

当日は、全2年生が本学4号館アリーナにおいて心臓マッサージなどの救命措置の実技に取り組みました。緊急出動に備えて2台の消防車にてお越しいただいた相模原消防署緑が丘分署の皆様、ご指導・ご協力をいただきありがとうございました。



避難防災訓練を実施

2023年6月5日(月)避難防災訓練を実施しました。避難先の淵野辺公園広場で消防隊員の指導のもと、消火器の使用体験、煙体験、起震車体験を行いました。その後、キャンパスに戻り、敷地内に設置されている防災井戸から飲料水を造るデモンストレーションと試飲をしました。保育者・施設職員を志望する学生が多い本学では、避難訓練を貴重な学びの機会と捉えています。



和泉短期大学後援会 第16期総会を開催

2023年6月24日(土)和泉短期大学において和泉短期大学後援会第16期総会が開催されました。潮田健治氏による開会祈禱で始まり、雑賀えり子後援会会長の挨拶、須田拓理事長、植田洋子父母会会長、川井超彦同窓会会長による来賓挨拶、2022年度事業報告および決算、2023年度事業計画および予算について審議され、全て承認されました。総会後には、本学 横川剛毅教授(学生部長)による記念講演「キリスト教学校における学生支援」が行われキリスト教に基づいた学生支援についてお話いただきました。



就職説明会・卒業生を招いての就職懇談会

2023年7月22日(土)3限「キャリアデザインⅡ(2年生)」の授業において、相模原市幼稚園・認定こども園協会と相模原市私立保育園・認定こども園園長会の先生方をお招きして、就職説明会を開催しました。同日、4限に「卒業生を招いての就職活動体験談」を行い、幼稚園、保育所、認定こども園、障がい者支援施設、児童発達支援センターで活躍する卒業生6名と和泉短期大学専攻科介護福祉専攻の在学生2名の合計8名が講演くださいました。



喀痰吸引等研修

和泉短期大学では、2023年度より保育士や介護職員等を対象に喀痰吸引等研修を始めました。今年度は5月13日(土)〜8月5日(土)に研修を行い6名の参加がありました。

喀痰吸引等とは医療的ケアのことで、自分で口や鼻から痰を出せない場合に、口や鼻、気管切開部に管を入れて痰を取り出す行為です。また、自分で食べ物や飲み物を入れない場合、食事をしてもらってしまふ場合などに鼻から管を胃や腸まで入れて栄養を送る経鼻・経腸経管栄養、さらに胃や腸に直接栄養を入れる胃ろう・腸ろう栄養があります。

専攻科は医療的ケアに関する研修を2016年から授業で行っています。医療的ケアが実施できるようになるためには、基本研修(講義50時間)と人形を使用しての演習があります。それを修了後に、医療職の指導の下、対象者に決められた回数を行う実地研修があります。実地研修を修了して、初めて医療的ケアを医師の指示に基づいて実施できるようになります。このように、医療的ケアは本来、医療行為ですのでしっかりと研修を受けて、安全に事故なく実践されることです。専攻科では、実地研修に関しては実践が困難であるため、職場等で看護師の指導の下に実践されるように勧められています。

近年、医療的ケアは高齢者や障がい者だけでなく障がいのある子どもへのニーズも高まっています。研修に参加した受講生は、保育所や障がい児施設等で勤務されている方もいます。受講生は、対象者のことなどを思い浮かべながら、熱心に研修に取り組んでいます。この研修を通して、受講生が医療的ケアの知識や技術を習得し、今後の支援に役立っていただけることを願っています。



日本キリスト教教育学会 第35回大会



乗り越え、他者に近づき寄り添うことを促す使命があります。テーマの副題として「キリスト教教育の可能性を

2023年6月9日(金)と10日(土)に本学会を会場として、日本キリスト教教育学会第35回学会大会が行われました。日本全国から79名の研究者が集い、フォーラム・研究発表・シンポジウムを通じて、キリスト教教育の今後の可能性について、活発な議論がなされ、充実した学会大会を開催することができました。

振り返りますと、開催校として依頼を受けた時は、ウィズ・コロナ、ニューノーマルなど、今一つイメージが湧かない時点で、大会開催時期に世の中が一体どのような状態になっているか、不安材料が山積みの時期でした。

本年3月、新感染症への対策も緩和の方向となり、ニューノーマル、新しい日常を創造する時が与えられ、実に4年ぶりに顔と顔を合わせて行う学会大会を開催することができました。直接顔を合わせ、言葉を交わし、また新しい出会いをもつことができる喜びを噛みしめつつ、次のようなテーマをもって学会大会を運営しました。

初日のフォーラムは「分断から和解へ」をテーマとしました。ウクライナ戦争を持ち出すまでもなく、人と人との間を隔て、相手を敵と味方と二分し、相互の理解も共感も失っている言葉や振舞い、このような心の動きは私たち自身の中にも、日常にもあります。教育には、これ

らの分断を乗り越え、他者に近づき寄り添うことを促す使命があります。テーマの副題として「キリスト教教育の可能性を問う」としました。分断の現実に直面しつつ、私達がこの課題にどのように取り組んでいるのかと問われます。

翌日のシンポジウムは「子どものウェルビーイングを実現するための教育と福祉の役割」というテーマを掲げました。児童福祉学科、単科大学である会場校の特色を生かしたテーマの設定をいたしました。教育と福祉の対話や協力はこれから深めていくべき大切な方向性であるとのコンセンサスが得られました。

フォーラム・シンポジウム、また研究発表を通して多彩な実践に触れ、多くを教えられました。一方で1日目の情報交換会では、立ち話の中で他大学の多くの先生方が本学の設立の歴史やこれまで果たしてきた役割を存分に知っておられ、本学の存立意味を非常に重視してくださっておられることを感じ、喜びと共に、改めて神の使命に生きる教育者の一人として、新たな励みが与えられました。

最後に本学会大会のために、約15か月間にわたる準備実行委員会お一人お一人のご尽力に心より感謝申し上げます。

(地域連携推進センター長・図書館長 松浦 浩樹)

問う」としました。分断の現実に直面しつつ、私達がこの課題にどのように取り組んでいるのかと問われます。

翌日のシンポジウムは「子どものウェルビーイングを実現するための教育と福祉の役割」というテーマを掲げました。児童福祉学科、単科大学である会場校の特色を生かしたテーマの設定をいたしました。教育と福祉の対話や協力はこれから深めていくべき大切な方向性であるとのコンセンサスが得られました。

フォーラム・シンポジウム、また研究発表を通して多彩な実践に触れ、多くを教えられました。一方で1日目の情報交換会では、立ち話の中で他大学の多くの先生方が本学の設立の歴史やこれまで果たしてきた役割を存分に知っておられ、本学の存立意味を非常に重視してくださっておられることを感じ、喜びと共に、改めて神の使命に生きる教育者の一人として、新たな励みが与えられました。



人事

1. 退職(2023年3月31日付)
井狩 芳子 教授
鈴木 敏彦 教授

2. 退任(2023年3月31日付)
土橋 正文 事務局長

3. 就任(2023年4月1日付)
《法人》
土橋 正文 評議員、内部監査室員

《和泉短期大学》
大下 聖治 副学長兼認証評価連絡調整責任者(ALO)(任期2年)
山本 美貴子 教務部長(任期2年)
松浦 浩樹 地域連携推進センター長・図書館長(任期2年)

4. 任用(2023年4月1日付)
武石 宣子 特任教授
佐久間志保子 特任教授(専攻科介護福祉専攻)
中野 志津江 特任助教(専攻科介護福祉専攻)
横地 厚 准教授

5. 任用(2023年7月1日付)
林 和也 広報渉外ユニット

6. 任用(任命書)
井狩 芳子 特命教授(2023年4月1日付)
片山 知子 特命教授(2023年5月26日付)

7. 昇任(2023年4月1日付)
平塚 豊 事務局長
曾根 真理子 事務局次長
深町 和哉 事務局次長
田中 孝一 ユニットリーダー

8. 配置(2023年4月1日付)
平塚 豊 庶務ユニット(施設担当)リーダー兼務
曾根 真理子 教育・学習支援ユニットリーダー・IR
担当兼広報渉外ユニットリーダー兼務
深町 和哉 学術情報ユニットリーダー・IR
担当兼務
田中 孝一 学生支援ユニットリーダー

安西 美咲 助教

和寺 悠佳 宗教部長(任期2年)
松山 洋平 入試広報部長(任期2年)

横川 剛毅 学生部長(任期2年)
矢野 由佳子 実習サポートセンター長(任期2年)
佐藤 美紀 専攻科介護福祉専攻主任(任期2年)

中山 恭一 助教
杉田 美香 助教
横島 桂子 広報渉外ユニット

川上 美智留 ユニットリーダー
木村 文紀 ユニットリーダー
金成 泰宏 ユニットリーダー

川上 美智留 庶務ユニット(経理担当)リーダー
木村 文紀 庶務ユニット(法人担当・IR担当)リーダー
金成 泰宏 教育・学習支援ユニットリーダー・IR担当

川上 美智留 庶務ユニット(施設担当)リーダー兼務
木村 文紀 教育・学習支援ユニットリーダー・IR
担当兼広報渉外ユニットリーダー兼務
深町 和哉 学術情報ユニットリーダー・IR
担当兼務
田中 孝一 学生支援ユニットリーダー

川上 美智留 ユニットリーダー
木村 文紀 ユニットリーダー
金成 泰宏 ユニットリーダー

川上 美智留 ユニットリーダー
木村 文紀 ユニットリーダー
金成 泰宏 ユニットリーダー

川上 美智留 ユニットリーダー
木村 文紀 ユニットリーダー
金成 泰宏 ユニットリーダー

川上 美智留 ユニットリーダー
木村 文紀 ユニットリーダー
金成 泰宏 ユニットリーダー

川上 美智留 ユニットリーダー
木村 文紀 ユニットリーダー
金成 泰宏 ユニットリーダー

川上 美智留 ユニットリーダー
木村 文紀 ユニットリーダー
金成 泰宏 ユニットリーダー

川上 美智留 ユニットリーダー
木村 文紀 ユニットリーダー
金成 泰宏 ユニットリーダー

川上 美智留 ユニットリーダー
木村 文紀 ユニットリーダー
金成 泰宏 ユニットリーダー

川上 美智留 ユニットリーダー
木村 文紀 ユニットリーダー
金成 泰宏 ユニットリーダー

川上 美智留 ユニットリーダー
木村 文紀 ユニットリーダー
金成 泰宏 ユニットリーダー

お慶び(誕生)

島袋 真美
広報渉外ユニット 長男 朝陽(あさひ)さん
2023年8月27日生

訃報

故 杉田 宣子 氏
杉田美香 助教 御義母
(2023年8月3日)

故 十時 好子 氏
十時愛美 教育・学習支援ユニット(実習サポートセンター) 御祖母
(2023年8月10日)

主による平安をお祈りいたします。

新事務局長就任のご挨拶

和泉への想い 謙虚な気持ちで

事務局長 平塚 豊



略歴

1985年3月 専修大学文学部国文学科卒業
1986年4月 朝霞市役所勤務
1992年6月 和泉短期大学勤務(総務課長、広報渉外・庶務ユニットリーダー、庶務ユニット庶務担当・施設担当リーダー、事務局次長)
2011年4月 学校法人和泉短期大学評議員 現在に至る
2023年4月 学校法人和泉短期大学事務局長、理事

表彰

2017年7月 一般社団法人キリスト教保育連盟永年勤続表彰(勤続20年)
2023年2月 全国保育士養成協議会会員校教職員表彰
2023年5月 学校法人和泉短期大学永年勤続表彰(勤続30年)

2023年4月から学校法人和泉短期大学の第7代事務局長に就任しました平塚豊です。どうぞよろしくお願いいたします。

大学を卒業し公共図書館に勤めていた頃、上司である館長からたびたび「図書館職員としての資質を磨くために一番大切なことは「謙虚であること」です。」と教わりました。本学では図書館の司書から始まり、その後、庶務を中心に4つの部署を経験しましたが、この教えはどこでも通じるものでした。

本学の図書館の入り口付近には本学の理事長・学長を勤めた伊藤忠彦先生から寄贈されたコールドコット賞のコレクションが展示されています。コールドコット賞は毎年アメリカでもっともすぐれた絵本作家に贈られる最高峰の賞です。日本語で出版されたものはもちろん、日本では手に入らない原書は海外から取り寄せ、受賞第一号の「Animals of the Bible, A Picture Book」(1938年受賞)から最新受賞作まで全ての絵本が揃っています。

伊藤先生は『絵本の力』と題する最終講義の中で、ご自身の幼少期における実体験や本学で指導にあたられる中で見出された絵本の魅力などを紹介されました。「ちいさいおうち(The Little House)」(1943年)により受賞(第六号)したバージニア・リー・パートンは、授賞式のスピーチで大人だからと偉ぶらず、常に子どもから学ぶことの必要性を語っています。伊藤先生がコールドコット賞に惹かれたのは、コールドコットという人物の生涯と、子どもたちと謙虚に向き合って生まれた素晴らしい作品に共感されたからではないでしょうか。私もこの絵本の力を信じて、大切にしていきたいと考えています。

学校法人和泉短期大学を取り巻く状況は大変厳しくなっています。けれども、様々な困難に、私は謙虚な姿勢で取り組んでまいります。

至らない点は多々ありますが、今後ともご指導ご鞭撻のほどよろしくお願いいたします。申し上げます。

2023年度

新任教職員紹介

児童福祉学科

准教授 横地 厚



4月より准教授として着任し、社会福祉に関する科目を担当致します。私はこれまで社会福祉、とりわけ地域福祉に関する理論と実践の研究を行うとともに、様々な地域をフィールドに学生とボランティア活動を行って参りました。学内と学外での学びを融合させ、「愛と奉仕の実践が具現化できるよう、精一杯努めて参りますので、宜しくお願い致します。

児童福祉学科

助教 中山 恭一



和泉短期大学の非常勤講師としてご縁を頂き、その年に生まれた長男が、もう高校3年生となりました。多種多様な学校を回り、大好きな学校の一つだった和泉短期大学に、今年から専任教員として勤めさせて頂きます。担当科目である健康分野の探求は基より、教職員の皆様と連携し学生一人一人に寄り添うサポートを目指して参ります。皆様どうぞ宜しくお願い致します。

児童福祉学科

助教 杉田 美香



皆さま、はじめまして。幼児教育の場で実習生をお預かりする側から、実習指導の担当として着任いたしました。現代の社会で、保育や社会福祉に関

わることは意義深く、同時に質の高さが求められていると強く感じます。

その源となる和泉短期大学で、これまでの経験を最大限に活かして、教職員の皆さま、学生の皆さんとともに学び続けたいと思います。どうぞよろしくお願いいたします。

広報渉外ユニット 横島 佳子



昨年の朝ドラ「ちむどんどん」で、主人公、暢子が料理人を目指し、修行を終え独立する際に、オーナーは「汝の立つところ深く泉を掘れ」と言って送り出します。これは、覚悟と信念を持って、成功するまで頑張りなさいという激励でした。本学は、ただの「泉」ではなく、「和泉」です。調和と和やかさを兼ね備えた、愛と奉仕の英知の和泉を多くの方に知ってもらうため、広報活動に邁進したいと思っております。

広報渉外ユニット 林 和也



7月より広報渉外支援ユニットの職員として働かせて頂いております。和泉短期大学では専攻科までの三年間を過ごし、卒業後は特別養護老人ホームにて介護員として働いていました。和泉短期大学の魅力を発信し、これからの福祉業界で活躍していく学生の皆さん様々なサポートを行っていただければと思います。至らない点もあるかと思いますが、精進して参りますのでどうぞ宜しくお願い致します。

学校法人和泉短期大学 永年勤続表彰



須田拓理事長／平塚豊事務局長／川上美智留リーダー／大下聖治副学長／佐藤守男学長

2023年5月15日(月)和泉クラーク・ホールに於いて、創立記念礼拝後に、教職員の永年勤続表彰が行われました。学校法人和泉短期大学では、永年にわたり教学に力を尽くした教職員に対して表彰しています。

2023年度は、須田 拓理事長から、事務局長 平塚豊氏(勤続30年)、庶務ユニット(経理担当)リーダー 川上美智留氏(勤続30年)、副学長・教授 大下聖治氏(勤続15年)に、表彰楯、記念品、賞金が贈呈されました。

— 2022年度決算書概要説明 —

厳しさを増す運営状況

2023年5月26日(金)開催の理事会、評議員会において2022年度決算が承認されました。

2022年度決算の概要を説明いたします。学校法人会計の計算書類は、資金繰りの状態を表す「資金収支計算書」、経営状態を表す「事業活動収支計算書」、財政の安全性を表す「貸借対照表」により表示し、私立学校法第47条及び学校法人会計基準第4条に定められた規則に基づき作成しています。

本法人の財務に関する公表は、「財務計算書に関する書類」とともに、決算書の概要として、資金収支決算概要、活動区分資金収支決算概要、事業活動収支決算概要、貸借対照表決算概要を公表します。

資金収支計算書は、2022年度中の全ての資金の流れを表示した計算書です。資金収入合計は3,186,026千円、資金支出合計は3,264,970千円で、78,944千円支出超過です。

2022年度末支払資金である翌年度繰越支払資金(現金預金)は1,019,644千円で、前年度繰越支払資金(現金預金)1,098,588千円に比べて資金収支差額は、78,944千円減少しました。

現金預金減少の主な要因は低金利下のため、現金預金から金銭の信託に100,000千円預け替えたことによります。

事業活動収支計算書は、当該年度の学校法人の収入及び支出の均衡状況を明らかにし、学校法人が健全であるかを示す計算書です。3つの収支区分(①教育活動収支、

②教育活動外収支、③特別収支)から構成されています。

經常収入(教育活動収入617,531千円と教育活動外収入20,039千円)637,570千円の71.8%を学納金に依存しているため、学生数の減少は、本法人の運営に甚大な影響を及ぼすこととなります。事業活動収支差額(基本金組入前当年度収支差額)△78,203千円から第1号、第3号基本金2,239千円を基本金に組入れた後の当年度収支差額は、80,442千円支出超過でした。

教育活動支出の大半を占める人件費は、414,880千円で人件費比率は、65.1%です。教育研究経費は185,813千円、管理経費は114,201千円でした。

3つの区分の合計額である事業活動収入計は637,530千円、事業活動支出計は、715,773千円でした。

貸借対照表は、2022年度末における当法人の資産の部、負債の部、純資産の部の3つの要素から構成され、学校法人の財政状態を明らかにする計算書です。有形固定資産の土地、建物、構築物、機器備品等については、取得価額から減価償却累計額等を控除した金額で表しています。

資産の部合計は、8,244,949千円です。退職給与引当金と前受金が大部分を占める負債の部合計は、355,004千円です。基本金と繰越収支差額で構成されている純資産の部合計は、7,889,945千円です。負債の部合計と純資産の部合計は、8,244,949千円です。

事務局長 平塚 豊

— 2023年度予算書概要説明 —

厳しい予算編成

2023年3月24日(金)評議員会、理事会において2023年度予算が承認されました。計算書類の予算書は、資金収支予算書と事業活動収支予算書で構成されます。

2023年度予算計算書類の概要を説明いたします。

資金収支予算書の資金収入合計は、727,431千円、資金支出合計は893,873千円です。資金収支差額は、166,442千円支出超過になる見込みです。これは、その他の支出として現金預金から減価償却特定資産等として69,670千円の預け替えを予定している

ことが大きな要因になっています。

事業活動収支予算書は、教育活動収支、教育活動外収支、特別収支の3つに区分され、区分ごとに収支差額を求めます。3つの区分の合計額である事業活動収入計は599,970千円です。基本金組入額合計は、3,396千円です。事業活動支出計は、予備費30,000千円を含め746,247千円です。2023年度事業活動収支差額は、146,277千円支出超過になり、大変厳しい予算編成になっています。

学校法人和泉短期大学の財政見通しについて

少子化による18歳人口の減少、受験生の4年制保育士養成大学志向、私立学校ガバナンス改革等、本学を取り巻く経営環境は年々急速に変化しています。

本学は、經常収入の74.1%を学納金に依存している現状において、入学者の定員確保、離学者の防止は喫緊の課題となっています。

2022年度は、新型コロナウイルス感染症防止対策として教室の除菌装置を設置、デジタル化への対応経費として電子決裁システム・web出願システムの導入、遠隔教育の充実を図る為の方策として和泉クラーク・ホールのLAN敷設工事、学修成果の可視化システムの導入を行いました。2023年度は、これらの事業を継続し、教室等の網戸設置など、引き続き感染症対策を執行し、さらなる教育環境整備に努めます。

相模原市に移転後47年が経過し、校舎等の計画的な修繕計画及び教育の質保証と可視化のためのICT機材の整備、教育研究活動の維持向上を図るために教育環境の整備計画と経費削減をはじめとした経営の効率化とのバランスを保ち、一層の財政基盤の強化を図って参ります。

「2023年度学校法人和泉短期大学の基本構想」は、次の6つの柱です。

1. 建学の精神の深化、
2. 将来ビジョンの策定と実行、
3. 第2次中長期計画の実行と新中期計画策定準備、
4. 私立学校法改正への対応・コンプライアンスの強化、
5. 地域連携とリカレント教育の強化、
6. ICT環境の充実と施設整備計画、により事業展開して参ります。

2020年度から改正私立学校法の施行に伴い、学校法人和泉短期大学第2次中期計画15のビジョン(2020年度～2024年度)を策定し、2020、2021、2022年度に全教職員でPDCAサイクルによる振り返りを行い、理事会、評議員会に進捗状況を報告致しました。

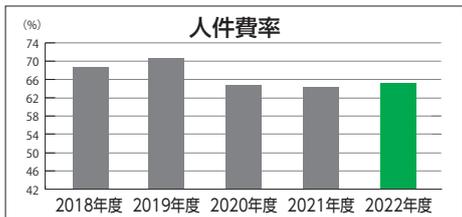
新型コロナウイルス感染拡大により先行き不透明な時代の中で、年々厳しさを増している経営状況下ではありますが、本学の教育環境を整備充実させていくために、2023年度も引き続き「教育環境充実資金募金」と本学独自の給付型奨学金「愛のいずみ基金奨学金」の募金活動を行います。

第2次中期計画に基づき、2022年度に収容定員変更による学則変更を文部科学省に届け出ました。本学のさらなる発展を目指して「出るを制して、入るを計る」ことを原則とし、日頃から業務改善と経費削減に取り組み、効率的にそして慎重に予算を執行し資金の有効活用に努めます。

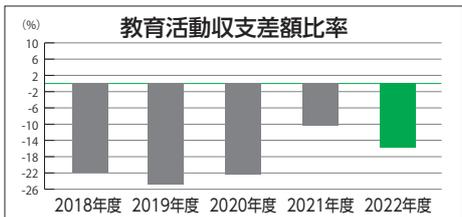
建学の精神である「キリスト教信仰に基づく教育と人格形成」、スクールモットーである「愛と奉仕」に基づいた本学の特色のある教育を展開し、学生にとって居心地の良い明るいキャンパス、地元密着型、実力養成型の短期大学を目指して教職員、法人関係者一体となり努力して参ります。

事務局長 平塚 豊

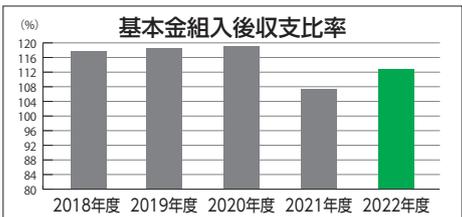
— (2018年度～2022年度) 財務比率推移(グラフ)と説明 —



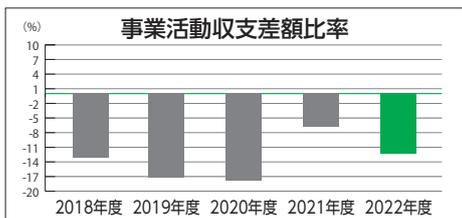
經常収入に対する人件費の割合。50%以内が目安です。人件費は、經常支出の中でも最大の比重を占める支出です。人件費が膨らみ収支状況が悪化しています。



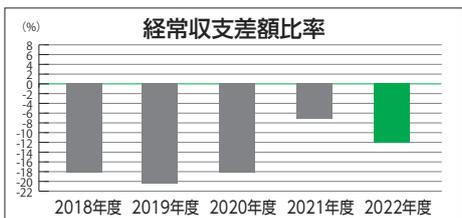
本業である教育活動の収支バランスを表す比率。学校本来の教育活動による収支差額を表している、本業である教育活動収入の範囲内でどの程度余裕を持って運営できているかを把握することができます。



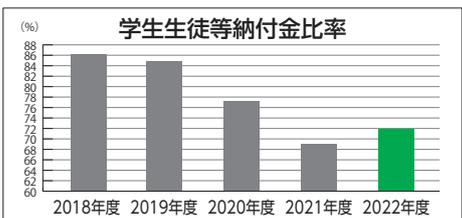
事業活動収入から基本金組入額を控除した額に対する事業活動支出が占める割合を示す比率。90%以上になると経営が困難になると言われています。臨時的な固定資産の取得等による基本金組入が著しく大きい年度において、一時的に上昇する場合があります。5年間、学納金減収により、100%を超えています。



旧帰属収支差額比率。学校法人の純利益を表す、重要な財務比率です。比率がプラスで大きいほど自己資金が充実しています。プラス分から将来の施設設備の取替更新の余裕を示します。マイナスが何年も継続して行くと経営は窮乏し、資金が枯渇します。10%以上を経営安定の指標にしています。5年間はマイナスの状況です。



經常的な活動に関する収支バランスを表す比率。この比率は、臨時的な収支を考慮しない通常の事業活動による収支バランスを示す比率のため、支出超過の場合は財政がひっ迫していることを表しています。支出超過分が、減価償却額の範囲内であれば、資金ショートを起こすことはありません。経営の健全性を表す指標です。



經常収入に占める学生生徒等納付金収入の割合です。經常収入に占める学生生徒等納付金への依存度が高いため、学生数の減少は、経営に甚大な影響を及ぼすため補助金、その他の収入の増額を語る必要性があります。2020年度から給付型奨学金の補助金増収により低下しています。

— 資金収支計算書概要 —

2022年度決算・2023年度予算

収入の部

(単位：千円)

| 科目 | 2022年度決算額 | 2023年度予算額 |
|-------------|-----------|-----------|
| 学生生徒等納付金収入 | 457,359 | 444,490 |
| 手数料収入 | 6,383 | 6,356 |
| 寄付金収入 | 2,224 | 1,000 |
| 補助金収入 | 80,857 | 93,157 |
| 国庫補助金 | 80,039 | 93,094 |
| 地方公共団体補助金 | 818 | 63 |
| 付随事業・収益事業収入 | 24,260 | 27,367 |
| 受取利息・配当金収入 | 20,039 | 20,700 |
| 雑収入 | 45,923 | 6,900 |
| 前受金収入 | 132,410 | 119,870 |
| その他の収入 | 2,589,401 | 148,635 |
| 資金収入調整勘定 | △ 172,830 | △ 141,044 |
| 資金収入合計 | 3,186,026 | 727,431 |
| 前年度繰越支払資金 | 1,098,588 | 1,020,000 |
| 収入の部合計 | 4,284,614 | 1,747,431 |

支出の部

(単位：千円)

| 科目 | 2022年度決算額 | 2023年度予算額 |
|-----------|-----------|-----------|
| 人件費支出 | 403,000 | 356,927 |
| 教育研究経費支出 | 136,965 | 175,172 |
| 管理経費支出 | 106,757 | 114,572 |
| 施設関係支出 | 450 | 101,010 |
| 設備関係支出 | 2,109 | 1,435 |
| 資産運用支出 | 2,576,775 | 69,670 |
| その他の支出 | 76,924 | 45,087 |
| [予備費] | | 30,000 |
| 資金支出調整勘定 | △ 38,010 | 0 |
| 資金支出の部合計 | 3,264,970 | 893,873 |
| 翌年度繰越支払資金 | 1,019,644 | 853,558 |
| 支出の部合計 | 4,284,614 | 1,747,431 |
| 資金収支差額 | △ 78,944 | △ 166,442 |

— 事業活動収支計算書概要 —

2022年度決算・2023年度予算

(単位：千円)

| 科目 | 2022年度決算額 | 2023年度予算額 |
|-------------------------|-----------|-----------|
| 事業活動収入の部 | | |
| 学生生徒等納付金 | 457,884 | 444,490 |
| 手数料 | 6,383 | 6,356 |
| 寄付金収入 | 2,224 | 1,000 |
| 経常費等補助金 | 80,857 | 93,157 |
| 付随事業収入 | 24,260 | 27,367 |
| 雑収入 | 45,923 | 6,900 |
| 教育活動収入計 | 617,531 | 579,270 |
| 教育活動支出の部 | | |
| 人件費 | 414,880 | 370,056 |
| 専任教員給 | 186,649 | 185,037 |
| 兼任教員給 | 12,360 | 12,596 |
| 専任職員給 | 156,235 | 146,416 |
| 兼任職員給 | 7,641 | 10,928 |
| 役員報酬 | 1,790 | 1,950 |
| 退職給与引当繰入額 | 48,556 | 13,129 |
| 退職金 | 1,649 | 0 |
| 教育研究経費 | 185,813 | 224,242 |
| (減価償却額) | 48,848 | 49,070 |
| 管理経費 | 114,201 | 121,949 |
| (減価償却額) | 7,463 | 7,377 |
| (広報宣伝費) | 19,860 | 20,680 |
| 徴収不能額等 | 525 | 0 |
| 徴収不能額 | 525 | 0 |
| 教育活動支出計 | 715,419 | 716,247 |
| 教育活動収支差額 | △ 97,888 | △ 136,977 |
| 外収支 | | |
| 受取利息・配当金 | 20,039 | 20,700 |
| 教育活動外収入計 | 20,039 | 20,700 |
| 教育活動外支出計 | 0 | 0 |
| 教育活動外収支差額 | 20,039 | 20,700 |
| 経常収支差額 | △ 77,849 | △ 116,277 |
| 特別収支 | | |
| 事業活動収支 | | |
| 資産売却差額 | 0 | 0 |
| その他の特別収入 | 0 | 0 |
| 特別収入計 | 0 | 0 |
| 資産処分差額 | 354 | 0 |
| その他の特別支出 | 0 | 0 |
| 特別支出計 | 354 | 0 |
| 特別収支差額 | △ 354 | 0 |
| [予備費] | | 30,000 |
| 基本金組入前当年度収支差額 | △ 78,203 | △ 146,277 |
| 基本金組入額合計 | △ 2,239 | △ 3,396 |
| 当年度収支差額 | △ 80,442 | △ 149,673 |
| 前年度繰越収支差額 | 2,590,516 | 2,510,074 |
| 基本金取崩額 | 0 | 0 |
| 翌年度繰越収支差額 | 2,510,074 | 2,360,401 |
| 事業活動収入計 | 637,570 | 599,970 |
| 事業活動支出計 | 715,773 | 746,247 |
| 事業活動収支差額(基本金組入前当年度収支差額) | △ 78,203 | △ 146,277 |
| 事業活動収支差額比率(旧帰属収支差額比率) | -12.3% | -24.4% |

— 2022年度 貸借対照表概要(2023年 3月31日) —

(単位：千円)

| 資産の部 | | | |
|--------------|-----------|-----------|-----------|
| 科目 | 2022年度末 | 2021年度末 | 増 減 |
| 固定資産 | 7,178,810 | 7,141,390 | 37,420 |
| 有形固定資産 | 2,694,523 | 2,748,567 | △ 54,044 |
| 土地 | 1,928,418 | 1,928,418 | 0 |
| 建物 | 658,740 | 707,201 | △ 48,461 |
| 構築物 | 3,545 | 4,481 | △ 936 |
| 教育研究用機器備品 | 15,489 | 20,281 | △ 4,792 |
| 管理用機器備品 | 2,671 | 2,946 | △ 275 |
| 図書 | 85,660 | 85,240 | 420 |
| 特定資産 | 3,113,635 | 3,047,110 | 66,525 |
| 第2号基本金引当特定資産 | 100,000 | 100,000 | 0 |
| 第3号基本金引当特定資産 | 340,735 | 339,110 | 1,625 |
| 減価償却引当特定資産 | 2,138,000 | 2,086,000 | 52,000 |
| 退職給与引当特定資産 | 174,900 | 162,000 | 12,900 |
| 施設拡充引当特定資産 | 360,000 | 360,000 | 0 |
| その他の固定資産 | 1,370,652 | 1,345,713 | 24,939 |
| 電話加入権 | 690 | 690 | 0 |
| 施設利用権 | 62 | 123 | △ 61 |
| 金銭の信託 | 600,000 | 600,000 | 0 |
| 定期預金 | 769,900 | 744,900 | 25,000 |
| 積立保険金 | 0 | 0 | 0 |
| 流動資産 | 1,066,139 | 1,199,335 | △ 133,196 |
| 現金預金 | 1,019,644 | 1,098,589 | △ 78,945 |
| 未収入金 | 42,735 | 97,020 | △ 54,285 |
| 貯蔵品 | 3,629 | 3,610 | 19 |
| 仮払金 | 131 | 116 | 15 |
| 資産の部合計 | 8,244,949 | 8,340,725 | △ 95,776 |

(単位：千円)

| 負債の部 | | | |
|------------|-----------|-----------|----------|
| 科目 | 2022年度末 | 2021年度末 | 増 減 |
| 固定負債 | 177,569 | 165,688 | 11,881 |
| 退職給与引当金 | 175,019 | 163,138 | 11,881 |
| 預り敷金 | 2,550 | 2,550 | 0 |
| 流動負債 | 177,435 | 206,888 | △ 29,453 |
| 未払金 | 38,010 | 69,633 | △ 31,623 |
| 前受金 | 132,410 | 130,095 | 2,315 |
| 預り金 | 7,015 | 6,750 | 265 |
| 仮受金 | 0 | 410 | △ 410 |
| 負債の部合計 | 355,004 | 372,576 | △ 17,572 |
| 純資産の部 | | | |
| 科目 | 2022年度末 | 2021年度末 | 増 減 |
| 基本金 | 5,379,872 | 5,377,632 | 2,240 |
| 第1号基本金 | 4,889,137 | 4,888,522 | 615 |
| 第2号基本金 | 100,000 | 100,000 | 0 |
| 第3号基本金 | 340,735 | 339,110 | 1,625 |
| 第4号基本金 | 50,000 | 50,000 | 0 |
| 繰越収支差額 | 2,510,073 | 2,590,517 | △ 80,444 |
| 翌年度繰越収支差額 | 2,510,073 | 2,590,517 | △ 80,444 |
| 純資産の部合計 | 7,889,945 | 7,968,149 | △ 78,204 |
| 負債の部、純資産の部 | 8,244,949 | 8,340,725 | △ 95,776 |

注記 1. 減価償却額の累計額の合計額 2,193,862千円
 2. 翌会計年度以降の基本金への組入額 0千円

2023年度 和泉短期大学「愛のいずみ基金奨学金」(給付型奨学金)のお願い

学校法人和泉短期大学の原点であるララ物資の精神を引き継ぐために本学教職員・法人関係者の方々からの寄付を中心とした本学独自の給付型奨学金基金を2018年度より設立しました。

現在の社会・経済環境が甚だ厳しい状況にあります。本学独自の愛のいずみ奨学金基金の趣旨をご理解のうえ、和泉短期大学の学生の支援充実のため、一人でも多くの方々のご支援、ご協力を賜りたくお願い申し上げます。

募金目標金額 3,000,000円
募金募集期間 2023年6月～2024年3月(第6期)
募金金額 1□5,000円
払込方法 郵便振替口座
口座番号 00280-6-105705
口座名 学校法人 和泉短期大学
愛のいずみ基金奨学金

寄付者一覧(敬称略) <2023年4月1日～2023年7月31日>

石井 由希子/石塚 節子/植田 洋子/潮田 健治/岡田 京子/片山 知子/岸川 洋治/佐藤 蘭美/佐藤 守男/嶋田 順好/武石 宣子/
 中島 千恵子/中野 陽子/中野志津江/平塚 豊/深町 和哉/松井 敏枝/八代 陽子/山田 由美/匿名希望(11件) 以上30件 409,000円

所得税・住民税の寄付控除

本法人への募金(寄付金)につきましては、年間2,000円を超える金額に対して、確定申告をすることにより所得税及び住民税の寄付控除を受けることができます。

法人募金の場合

法人からの募金(寄付金)につきましては、日本私立学校振興・共済事業団を通じて、「受配者指定寄付金」として全額損金算入することができます。詳しくは下記までご連絡ください。

問合せ先 学校法人 **和泉短期大学** 庶務ユニット(法人担当)
042-754-1133

2023年度「教育環境充実資金募金」のお願い

学校法人和泉短期大学は1956年4月東京都世田谷区中町に「バット博士記念養成所」を開設し、同年5月「現任訓練講習会」を開催したことに始まります。1960年、その現任訓練機関が「玉川保母専門学校」となり、1965年に「和泉短期大学」が設立され、2023年5月に学校法人和泉短期大学は創立67年を迎えました。

学校法人和泉短期大学を卒業された卒業生は20,036名の方々の働きや努力と活躍により発展成長したものと深く感謝申し上げます。次第であります。

和泉短期大学は、教育の充実を図り、学修環境整備、施設設備の維持整備を目的に2023年度も「教育環境充実資金募金」を行うことになりました。

皆様には出費多難な折とは存じますが、ご理解とご協力を賜りますようお願い申し上げます。

募金対象事業

- 1号館 教室プロジェクター交換工事
- ICT環境の整備
- 1号館 大教室 ウイルス除去装置設置

寄付者一覧(敬称略) <2023年4月1日～2023年7月31日>

戸田 美穂/伊藤 敏司/伊東 寛/植田 洋子/潮田 健治/岡田 京子/岡田 澄子/片山 知子/川井 俊幸/岸川 洋治/小久保光世/小暮百合子/小林 敬嗣/佐藤 蘭美/佐藤 守男/
 武石 宣子/中島千恵子/中野 陽子/中野志津江/仁木 真白/橋本 隆司/平塚 豊/松井 敏枝/溝口 敏江/森久保道明/八代 陽子/山田 由美/匿名希望(6件) 以上33件 401,000円

募金目標金額 10,000,000円
募金募集期間 2023年6月1日～2024年3月31日(第12期)
募金金額 1 個人 1□ 5,000円
 2 法人 1□ 10,000円

所得税・住民税の寄付控除

本法人への募金(寄付金)につきましては、年間2,000円を超える金額に対して、確定申告をすることにより所得税及び住民税の寄付控除を受けることができます。

法人募金の場合

法人からの募金(寄付金)につきましては、日本私立学校振興・共済事業団を通じて、「受配者指定寄付金」として全額損金算入することができます。

詳しくは下記までご連絡ください。

問合せ先 学校法人 **和泉短期大学** 庶務ユニット(法人担当)
042-754-1133

第54回いずみ祭 「4年ぶりの再開 おかえりな祭(さい)いずみ祭～つなごう和泉の輪～」

開催日 2023年10月28日(土) 10時～15時
 和泉短期大学1号館・和泉クラーク・ホール

4年ぶりにいずみ祭を開催します。今年度のテーマは「4年ぶりの再開 おかえりな祭(さい)いずみ祭～つなごう和泉の輪～」です。今回からサウンドコンテストは行いませんが、お子さまからご高齢の方まで楽しめる企画となるよう学生・教職員で準備を進めています。皆様のご来場をお待ちしております。

いずみ祭出店(展)予定

・各グループによる保育出店(ゲームや手作り企画)
 /和泉短大の展示/図書紹介/オレンジリボン活動展示/チャイルドファンドジャパン展示/サークル活動、学生による自主企画発表

・青葉二丁目自治会/福祉施設/相模原警察署
 ・同窓会「いずみのひろっぱ」
 ・受験生相談コーナー
 ・食堂開放

同日開催 保証人会

・「実習・就職について」大学より説明

※駐車場のご用意はありません。スクールバス、公共交通機関、自転車をご利用ください。スクールバスの時間は10月中旬にホームページでお知らせします。

